

みつくら

平成31年 1月15日 第282号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

菅原銀一さんが県卓越技能者表彰される

今冬も各県に南部杜氏として酒造りに行っているが、今年の11月20日盛岡市志家町のサンセール盛岡で、本年度の岩手県卓越技能者15名の表彰式が行われた。

その中で、南部杜氏伝統の酒造技術研さんで菅原銀一さんが表彰された。県卓越技能者で当大瀬川からは平成26年に辻村勝俊さんが表彰されており、今回で2人目となった。

ちなみに、今までに酒造技術関係において他県での受賞者を記載する。

長野県酒造協会会長表彰 平成3・4・5年 鎌田光信 (大地渡カマド)

青森県知事卓越技能者表彰	平成14年	辻村勝俊
福島県知事卓越技能者表彰	平成24年	菅原栄一
岐阜県卓越技能者表彰	平成18年	板垣博司
宮城県卓越技能者表彰	昭和61年	藤原美代二
	平成元年	菅原敬夫
	平成4年	熊谷彦右エ門

大瀬川高齢者クラブで輪投げ大会

大瀬川高齢者クラブ(菅原謙悦会長)では、12月9日に17名が参加して7区自治公民館で輪投げ大会が行われた。

成績は1位畠山弥一さん、2位菅原百合子さん、3位菅原孝三さんで菅原会長から表彰された。それに続いての芋の子会では、西部地区老人クラブ連合会軽スポーツ大会でスティックボールで優勝した祝賀会も兼ねて行われた。当日は役員達の持ち寄りのお重や、手作りの料理で会話が花が咲いたひとときであった。

やはり話題の多かったのは、足腰の痛みや病院の話であったが、次第に漬け物や自慢料理に移り、あっという間に西空が暗くなり「そろそろ、帰ろうか」との声に「そだね〜」と言って閉会となった。

防火を願い消防ポンプ自動車更新祝賀会

花巻市消防団第13分団第1部主催の消防ポンプ自動車更新お披露目会(祝賀会)が、12月16日に関係者33名が出席して大瀬川振興センターで開催された。

板垣章郎第1部長は「平成8年に更新してから現在まで22年間、消防・防災活動として使われた消防ポンプ自動車を更新して頂き、各関係者に御礼申し上げます。これからは、この新しい装置の自動車を大切に使うって、地域の防災活動に励んでまいります」と主催者の挨拶をされた。

菅原善幸石鳥谷総合支所長は「第1部長さんをはじめ、団員の皆さんや後援会の皆さんには日夜安心、安全の活動をしていただいております、その労苦に感謝しています」と祝辞を述べられた。鎌田幸也市消防団副団長は「今年は、現在までに市内で42件の火災が発生し、石鳥谷町だけでも2名の焼死者を出しています。尊い命を守る活動に励んで頂きたい」と挨拶があった。

板垣幸寿第1部後援会長は「この度の更新は、消防団関係者のお陰で実現できました。敬意と感謝を申し上げます。私たち後援会も無火災を目指して活動します」と乾杯の音頭であった。お披露目会に先立ち、板垣生栄さんが新車の機能を案内され「最新式のモニターがあり、操作も便利になっています」と内部を詳細に説明して頂いた。

「ウメおばあちゃんの革のトランク」

12月23日に大瀬川振興センターでくずまる大学主管(菅原敬夫会長)の世代間交流が開催された。

今回は企画展で展示された板垣忠雄さんのお父さんとお母さんの手紙のやり取りを物語ふうにして行なわれた。板垣榮さん(旧姓熊谷・木ノ宮家)は2度も海軍に召集されて昭和18年12月に戦死され、この戦死の報が届いたのは昭和19年の8月のことだった。それを知らずウメさん(榮さんの奥さん)は何通もの手紙を出していた。

この話を『ウメおばあちゃんの革のトランク』と題して子供達や親御さん、戦争の記憶が少し残っている高齢者など50人あまりが聞き入った。観客席を暗くし、ステージにスポットライトを当て椅子を2脚置いた。榮さん役を菅原得之さんが読み、ウメさん役は菅原敬子さんが読んだ。そして台本とナレーションは熊谷敏江さんが担当して進めた。

特に、台本の作成には敏江さんの並々ならぬ尽力があった。会場で聞いた人には涙ぐむ人も見られ、子供達も何かを感じるところがあったらしく最後まで静かに耳を傾けた。話の最後に菅原得之さんが「戦争は相手の気持ちを考えずに自分の考えを押し通すことで起きた。そうして大勢の人が亡くなった。

いじめも戦争と同じで相手のことを良く見て考えてやめてほしい」とみんなに呼び掛けた。会場からは非常にすばらしい出来栄であったと御褒めの言葉を頂いた。

その後、老人クラブの女性の方が朝早くから作ってくれたお汁粉を美味しく頂いた。

あじさいの会も一緒に避難訓練

「大瀬川活性化会議通報及び避難訓練」は11月20日に大瀬川振興センターで行われ、あじさいの会や大瀬川活性化会議職員、消防署など21名が参加して行われた。

この日の訓練は、会議室で集会中に調理室から出火、第一発見者が事務室に119番通報を依頼、職員が火災報知器を押し消防署へ通報した。その間、発見者などが消火器を持ち出し初期消火(粉末消火剤なので、実際は調理室ではなく玄関外)。同時に職員が会議室にいた方々を避難場所へ誘導した。

避難後は職員が避難人数を確認後、責任者(この日は熊谷会長)に「全員避難」を報告するまでの訓練であった。あじさいの会は、丁度元気でまっせ体操中であった。

黒森山神社で年越祭

黒森山神社の年越祭は、12月15日に別当である六盃家で行われた。本来の年越祭は、12月17日であったが、都合により変更となった。当日は、別当の畠山勝栄さんが主催し、大瀬川神楽(出席は畠山絹雄さん、熊谷美奈子さん、板垣由三さん)を奉納したあと、直会となった。

出席者は前述の他に役員の熊谷俊彦さん、板垣たか子さん、畠山三枝子さん、氏子の菅原敬夫さん、熊谷安久さん、畠山ノブ子さん、板垣江利子さんの11名であった。

六盃家に伝わる「黒森山神社由緒」によると、承久三年(1221)畠山重忠公が分祀を持参し、大瀬川城主瀬川伯耆守に依り居住したのが始まりと記され、古くは黒森新山堂や黒森神社と呼ばれていた。

真心一杯のふれあい昼食お弁当を届ける

大瀬川活性化会議地域福祉推進委員会(熊谷弘子委員長)は、11月25日に改善センターで18名の委員が8時から集まってお弁当作りをした。

このお弁当は85歳以上の高齢者と65歳以上の一人暮らしと寝たきりで介助が必要な人に届けられる。今年は67個を作った。

弁当の中身はご飯の他に鮭の切り身・鶏の唐揚げ・ミニトマト・キウイ・分厚い玉子焼き、紅白のかまぼこでカラフルにした。その他にも、チクワとコンニャクと昆布とニンジン、の煮締め、ホウレンソウの和え物と、非常に栄養のバランスがとれた中身となった。特にも、唐揚げや切り身がいつもより大きくて容器が狭くなった。委員の分も含めると90個にもなり中々大変な作業になったが、11時には出来上がり委員が手分けしてミカンを1個入れて配った。福祉推進委員会恒例のお弁当を心待ちにしている人もあり「毎年、有り難うさんです。」とお礼もあった。

12時頃には配り終わり、自分達も作ったお弁当を試食しながら、次回は容器を一回り大きくする様にと反省の声がでた。

みつくら

平成31年 1月15日 第282号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

今年も門松を寄贈

今年も大瀬川振興センターの玄関に板垣幸寿さんが門松を寄贈した。
 この門松は、幸寿さんのお父さんである好一さんの時代からの寄贈で約30年近くとなり、地区民から感謝されている。この門松は、1月14日まで飾っている。

意外と身近な大瀬川と皇室を語る

第56回大瀬川歴史探訪講座が12月17日に大瀬川振興センターで開催された。今回のテーマは「大瀬川と皇室」で講師は菅原重子さん(兼松家)を迎え、主に皇居勤労奉仕団について話し合った。
 主催者の活性化会議会長熊谷秀夫さんの挨拶の後、資料をもとに「皇居勤労奉仕団」「区長記録に残る大瀬川の皇室行事」「大瀬川の方が皇室に関わった事柄」について話し合われた。特に勤労奉仕団には大瀬川の多くの方が参加されている事や新たに農協が合併した時も重子さんが中心になって行った事が判明した。
 普段では絶対に入れない皇居の内部の様子や作業内容を詳しく聞くことができた。また、東京の中心に有りながら豊かな自然を大切にしている場所で、日本の成り立ちにも大きく関わっている事を改めて知った。折しも今年も平成最後の年でもあり、皇室や皇族について考える機会となった。

飲酒運転根絶を訴える

雪もなく、穏やかな12月23日は、交通安全協会大瀬川分会(板垣吉彦分会長)の飲酒運転撲滅全戸訪問の日となっている。大瀬川振興センターに9時集合。同分会のほか、交通安全母の会、自治公民館、防犯協会、交通指導員、石鳥谷交番の署員ら約30名が集合し「飲酒運転はあなたをとりまく全ての人を不幸にします」のチラシや交通事故防止注意喚起の入ったトイレットペーパーなどを地区内約190戸へ14班に分かれ各家々に訪問して訴えた。

熊谷さんが「銀河のしずく」ベスト10に入賞

県主催の「銀河のしずく・頂上コンテスト」が11月19日に北上市の県農業研究センターで65名が出席し、熊谷秀夫さんが490経営体の中からベスト10に入賞し、頂上コンテスト入賞米認定証が授与された。銀河のしずくは、平成27年に県奨励品種に採用された米の品種で、栽培地を限定している。
 入賞した熊谷さんの銀河のしずくは、4月12日に播種した苗を、5月6日に40aの水田に田植えをし、9月19日に刈り取りするまで慎重に栽培したものであった。県では、この品種の栽培農家の選定には、認定農業者であること、米の販売実績がある者、米の作付け面積が市町村平均以上であること、玄米タンパク質含有率等に対応できる技術水準にあることなど13項目が定められている。
 一次審査は11月14日、最終審査は11月19日に行われ、審査員5名中には加藤綱男日本調理師会長も含まれていた。審査に当たっては、白さやツヤなどの外観、タンパク質含有率7、3%以下(熊谷さんは6、6%)、香り、味、粘り、硬さなど多岐にわたっていた。審査の結果、熊谷さんは3位までの入賞とはならなかったものの、見事に4~10位(順位は付けない)のベスト10となった。
 熊谷さんは「今回の審査では、食味が良いと評価されたので、来年は栽培面積を増やしたいが、収量(525kg)が多い品種ではないので、もう少し高値であればよいのですが・・・」と語られた。

石鳥谷書道会作品展に大瀬川から2名

石鳥谷書道会の作品展(34点)は、12月5日から1月6日まで石鳥谷図書館で行われ大瀬川より、熊谷美奈子さん(9区下田)と熊谷静香さん(8区长四郎下)が出展された。熊谷美奈子さんは、2019年カレンダー中央に「適」の文字を書写。何と読むのかと解説を見たら「あっぱれ」とあった。
 また、熊谷静香さんは同様のカレンダーに「亥」、仲雄王の詩、星めぐりの歌の3点。特に「星めぐりの歌」は、ガラス(A4位?)に納められたもので、黒い上に白色のボールペンで詩全部が書かれていて、日本語の美しさを極めていた。

消火栓の定期点検を終了

岩手中部水道企業団では、毎年実施している大瀬川地内の消火栓28ヶ所について、11月に実際に作動確認や放水圧力確認などの点検を実施した。大瀬川活性化会議が平成22年に防災マップを全戸配布したが、その後7ヶ所増設されている。

子供会がミズキ団子作り

9区子供会(島山拓地区長)では、ミズキ団子作りを1月6日に9区自治公民館で、子供達6名と父母で行い、館内のロビーに鮮やかに飾った。
 このミズキ団子は14日に行われる9区新年交賀会に彩りを添えることだろう。

大瀬川婦人会が串団子作り

大瀬川婦人会(菅原房子会長)では、12月16日に20名が参加して、大瀬川構造改善センターで串団子作りを行った。
 講師は板垣眞喜子さんで、「醤油味串団子」の料理教室であった。8区1班の方々には「板垣眞喜子さんのお母さんも、団子つくりの名人ですよ」と話している。なんでも団子作りで肝心なのは「しとね方」なそうで、板垣眞喜子さんは「粉に熱湯を注ぎ2時間以上(一晩も・・・)寝かせた後にしとねますが、その時にダマが無くなるまで(餅状になるまで)しとねるのが美味しくなるコツです」とのこと。
 菅原房子さんは「みんなが丸めた団子の大きさはまちまちでしたが、串に刺すと美味しい串団子になり、味もバッチリでした」と話し、参加者も自宅での再挑戦に意欲を示していた。

少年消防クラブが巡回広報活動

大瀬川少年消防クラブ(玉山敦世話人)が12月23日に消防ポンプ自動車巡回広報活動を行った。
 巡回活動に先立って、佐藤学第13分団第2部長からクラブ員に消防についての説明があり「消防署と消防団の違いについて」「1週間前の大興寺での高速道法面火災について」「今日乗る消防ポンプ自動車(新車)の装備について」「女性消防団員の現状について」を少年達に分かるように講話があった。
 その後、各班に分かれて消防車に交代で乗り「みんなで火の元に注意して下さい」などと拡声器で啓発活動した。
 大瀬川少年消防クラブの発足は、昭和63年3月27日に大瀬川公民館で結成され、発起人は石鳥谷町消防団本部班長菅原一博さんで、発足当時のクラブ編成は小学校3年以上をクラブ員とし、小学校1・2年は準クラブ員とした。
 また、当時の組織は、統括指導者に板垣幸夫さん、副統括指導者に藤原米光(町消防団第2分団第1部長)さん、辻村博明(町消防団第2分団第2部長)さんが名を連ねている。

山祇神社と天満宮で元旦祭

元日の朝、天満宮では朝の5時から大瀬川神楽を奉納しての直町宮司による歳旦祭を行った。その後、山祇神社に移り同じく歳旦祭を行い直会となり、参加者は役員を始め23名が参加した。7区の役員の方には、年越しの夜10時頃から祈願者をお待ちするため、山祇神社に夜通し務めて頂いている。
 また、2月1日には山祇神社で紀元祭(春祈禱)を行うが、同時にどんと祭も執り行うので古い御札や御守りを是非お持ち頂き、御神火にふれて一年の無病息災・家内安全を祈願していただきたい。
 なお、年越祭は12月12日に行っている。